



緊急憲法学習会

自民党改憲案の目指すもの

講師 隅野隆徳さん (仮題)
専修大学名誉教授 (憲法学)

◆2013年9月15日(日)

13:30開会

◆流山市第2コミュニティホーム

(長崎小学校隣 通称 怪獣公園)

流山市野々下3-797 電話04-7144-4258

東武野田線豊四季駅南口徒歩10分

☆グリーンバス(南柏駅行き)があります

おおたかの森駅西口 13:15

豊四季駅南口 13:28

長崎小学校入口下車 13:29

<参加費：無料>

憲法を変えるなどもってのほか!

ジブリの宮崎駿監督アピール

。スタジオジブリの無料の小冊子「熱風」の最新号は「憲法改正」を特集し、宮崎駿監督が改憲反対を訴えて話題を呼んでいる。選挙前、書店では品切れが続出。ジブリ公式ページで公開を始めた。これは次のホームページから引用させていただきました。

<http://www.ghibli.jp/docs/0718kenpo.pdf>

僕は1941年生まれですが、……子どもの頃は、日本軍が中国大陸でひどいことをしたというのを自慢げに話す大人がいて、そういう話を間接的にはあっても何度も聞きました。同時に空襲でどれほどのひどいことになったかというのも聞きました。伝聞も含め、



いろんなことを耳にしましたから、馬鹿なことをやった国に生まれてしまったと思って、本当に日本が嫌いになりました。

戦後、アメリカ人がいっぱい来て、それを取り囲んでみんなが見物している。でも僕はアメリカ人からチューインガムやチョコ

コレートをもらうような恥ずかしいことはできない、そう思うような子どもでした。

今で言う、戦記物のようなものもずい分読みました。僕が子どもの頃に出された本には太平洋戦争について「ものすごく反省している」とか「本当はこうだった」みたいな話が多かったです。鉄砲を撃つ仕事だけではなく、たとえばレーダーにしても、どれほどいい加減なレーダーだったかということや、一生懸命努力したのに全部無駄になってしまったというようなことを、いろんな分野の人間たち、決してヒーローでない人間たちが書いたものが、ずい分出版されたのです。

僕は「自分の命よりももっと大事な大義があるんじゃないか」とか、「そのために死ぬんだ」と思って、そっちの方へ、ガンと行ってしまうタイプの人間なんです。もうちょっと早く生まれていたら、絶対、熱烈な軍国少年になっていたはずでした。さらにもっと早く生まれていれば、志願して、戦場で慌ててすぐに死んでしまうような人間です。あの当時は、本当の戦争というのは何がわかった時には死ぬ時だっというような時代だったと思います。

憲法を変えることについては、反対に決まっています。選挙をやれば得票率も投票率も低い、そういう政府がどさくさに紛れて、思いつきのような方法で憲法を変えようなんて、もってのほかです。

「戦前の日本は悪くなかった」と言いたいのもかもしれないけれど、悪かったんですよ。それは認めなきゃダメです。慰安婦の問題も、それぞれの民族の誇りの問題だから、きちんと謝罪してちゃんと賠償すべきです。領土問題は、半分に分けるか、あるいは「両方で管理しましょう」という提案をする。この問題はどんなに揉めても、国際司法裁判所に提訴しても収まるはずがありません。かつて日本が膨張したように、膨張する国もあります。でも、その度に戦争をするわけにはいかない。そんなことよりも、今は、日本の産業構造を変えていこうというまじめな取り組みをすべきだと本当に思いますよ。こんな原爆だらけの国で戦争なんかできっこないじゃないですか。中国が膨張しているのは中国の内発的な問題です。そして、中国内の矛盾は今や世界の矛盾ですから、ただ軍備を強化したり、国防軍にすればけりがつくなんていう問題じゃないと僕は思います。

